



県中いわて

平成30年6月1日 / 第242号

●発行／岩手県中学校長会 ●代表／佐藤 進（盛岡市立上田中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話019(622)0572 ●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

第56回岩手県中学校長会総会（4月27日開催）

新たな時代の到来に向けて

岩手県中学校長会 第48代 会長 佐藤 進（盛岡市立上田中学校）

平成30年度第56回岩手県中学校長会総会を、県内各地から会員の皆様のご参集をいただき、開催できますことに感謝申し上げます。

また、公務ご多用の中、岩手県教育委員会教育長高橋嘉行様、岩手県市町村教育委員会協議会会長千葉仁一様をはじめ多くのご来賓の皆様方の御臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

まずもって、3月末を持ってご勇退された、高橋清之会長をはじめ31名の会員の皆様には、三十有余年の長きにわたり、本県教育の充実・発展へのご功労に敬意を表すと共に、私たち後輩に対するこれまでのご指導に対しまして、厚く感謝申し上げます。

特にも7年前の東日本大震災においては、教育の復旧・復興の最前線でご尽力頂きました。県内各地における献身的な取組があってこそこの現在であり、県中校長会は、この経験を風化させることなく、語り続け、その思いを引き継ぐことが責務であると決意しております。どうかこれからも、機会ある毎に我々後輩に対しましてご指導賜りますようお願い申し上げます。

4月から新たに会員となった30名の皆様、心から歓迎申し上げます。本会の目的は、「会員相互の協調と連携を基調に、中学校長としての職能の向上を図り、本県教育の振興に寄与すること」にあります。新会員の皆様方には、これまで積み重ねてこられた様々な経験を活かし、その力をこれまで以上に発揮して頂きますようご期待申し上げます。

さて、来年5月には新元号が施行されます。今から30年前、平成となるその節目に中学校長会誌が創刊されました。この時の会長「佐々木正太郎先生」は「平成元年という新しい時代に入り、また、教育課程元年とも言える新学習指導要領の告示もありました。昭和の時代から平成の時代へと新しい風が吹いたように、中学校長会としても、新しい時代が始まったといえるのではないのでしょうか。」と記しております。

この時、学校数は本・分校併せて228校、生徒数は6万5千人でありましたが、現在は、学校数で3

割減、生徒数は半減という状況にあり、時代への対応と共に、未来を予測し創意工夫ある主体的な学校経営が一層求められていると考えます。

今回の学習指導要領改訂にあたっては、中教審において、社会の構造的な変化に対応するための教育のあり方が議論され、「答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出す力」や「受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮する力」の育成を重視しています。

昨年度全国学調質問紙結果を見ると、本県中学生は多くの項目において良好な状況にある中、「自分にはよいところがある」とした自己肯定感においては積極的肯定が25.5%となっており、改善傾向にあるものの、満足できる状況ではないと思われます。未来の創り手として、様々なことに挑戦し、たくましく生き抜く生徒の育成に向けて、継続的な実践が求められております。

また、復興教育については、3年後に10年の節目を迎えることになります。「震災津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後のいわての復興・発展を担う子どもたちを育成することが、岩手の教育の使命」としてこれまで取り組んで参りました。「形」は時間の経過と共に変化するものがありますが、変えてはいけないものが「志」であります。復興教育の理念を風化させることなく、しっかりと引き継いでいくための方法について検討する時期にあると考えます。一方で、「働き方改革」など喫緊の課題への対応など、これまで以上に校長のリーダーシップが重要となります。

今年度は10月に第56回岩手県小中学校長研究大会宮古大会が開催されます。準備に向けて精力的に取り組んで頂いている宮古地区校長会の皆様、分科会発表割当地区の校長会の皆様に感謝申し上げますと



共に、大きな成果を得る大会となるよう、全ての会員の皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

縷々申し上げて参りましたが、大きな節目を迎えようとしている中、会員一人一人が共通認識し、ご参集頂いた全ての校長先生にとって勇気が出る総会になることを期待するものであります。会員数は減少しても、組織力・結束力によって、課題対応力を

持った県中校長会を目指して参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

結びとなりますが、岩手県教育委員会並びに各市町村教育委員会をはじめとする関係諸機関、関係各位におかれましては、これまでと変わらぬ大所高所からご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げ、挨拶と致します。

退会者代表あいさつ

深謝、そして大きな期待

前岩手県中学校長会長
高橋 清之



平成30年度となり2か月程が過ぎました。各学校の教育活動とともに、岩手県中学校長会も新たな会員を加えて力強くスタートされましたことに、3月末をもって退会しました31名一同、心からお喜びを申し上げます。また、これまで共に歩みながら、ご協力やお支えをいただきましたことに深く感謝申し上げます。

さて、昨年度は中学校教育70年の節目の年でありました。全日本中学校長会の記念事業等に出席をさせていただいた際には、皆さんを代表して、皇太子同妃両殿下に現在の状況等を御説明申し上げ、熱心に耳を傾けていただく機会にも恵まれ、両殿下、そして後日には天皇皇后両陛下からも、取り立てて被災3県への温かいお励ましの言葉を賜りましたことを改めまして報告させていただきます。

全日中はこの10年を振り返る記念誌を作成した際に、東日本大震災の発生に係る取組を大きく取り上げる特集を組みました。そして、現在も全日中役員の被災地訪問を継続しながら、風化防止等の新たな課題へも率先して取り組む姿勢を全国に示していただいており、誠にありがたい限りであります。

7年ぶり、大震災以降初となる東北地区中学校長会研究協議会岩手大会の開催もありましたが、沿岸部の校長会のご協力による復興に関わるパネル展を特設するなど、ホスト県としての岩手の積極的な発信等により「東北はひとつ」という思いを強める、意義ある大会として成功裏に終えることもできました。

御多用の中、私たちの思いを酌んで講演講師を快諾いただいた三宅民夫アナウンサーを囲んでの懇談会における岩手県中学校長会の素晴らしい盛り上がり、その会員の皆さんの心意気は忘れ得ぬものです。岩手県中学校長会には、被災県として、これまでの取組やご支援と、その根幹を成してきた尊い考え・思い、そして課題等を決して忘れることなく、これからも歩みを進めていく使命があると考えます。

ところで、いよいよ移行期間を迎えた新学習指導要領、俄かに求められている学校における働き方改革等々、新しい時代に対応すべく、教育改革はその足を止めることはないでしょう。どのような状況の

下でも「未来社会を、よりよく、たくましく生きる資質能力の育成」を最終目的とする学校教育を、責任をもって預かる校長は、視野を広げ、思慮深く、そして強い信念をもって信頼される学校経営を実現させていかなければなりません。校長会は、そのような立場の校長にとって常に頼りになるよりどころであってほしいと思います。全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」は、まさに校長の、そして学校の主体性を重んじる象徴的提言であると振り返っています。

皆様方のお力により、今後もよりよい教育が実現していくことと、岩手県中学校長会のますますの発展を願い、退会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

平成29年度退会者

No.	地区	学校名	氏 名
1	盛岡	盛岡市立下橋中学校	高 橋 清 之
2	盛岡	盛岡市立下小路中学校	松井端 巧
3	盛岡	盛岡市立仙北中学校	川 村 孝 一
4	盛岡	盛岡市立大宮中学校	田 村 忠
5	盛岡	盛岡市立城東中学校	吉 田 昌 陽
6	盛岡	盛岡市立乙部中学校	田 澤 豊
7	盛岡	盛岡市立玉山中学校	君 塚 圭 一
8	岩手	八幡平市立安代中学校	吉 田 覚
9	岩手	滝沢市立滝沢南中学校	名須川 淳 精
10	岩手	岩手町立一方井中学校	後 藤 隆 信
11	紫波	紫波町立紫波第二中学校	田 村 敏 実
12	花巻	花巻市立南城中学校	牧 野 和 男
13	花巻	花巻市立大迫中学校	佐 藤 怜 子
14	和賀	北上市立東陵中学校	豊 田 栄 治
15	和賀	北上市立飯豊中学校	平 野 憲
16	和賀	北上市立江釣子中学校	和 田 政 男
17	和賀	北上市立和賀西中学校	川 邊 秀 樹
18	胆江	奥州市立水沢南中学校	高 橋 裕 紀
19	胆江	奥州市立田原中学校	石 川 勝 也
20	胆江	奥州市立江刺東中学校	千 枝 徳 三
21	一関	一関市立磐井中学校	加 藤 清
22	一関	一関市立千厩中学校	千 葉 敏 之
23	気仙	大船渡市立日頃市中学校	村 上 洋 子
24	気仙	大船渡市立越喜来中学校	西 村 文 利
25	釜石	大槌町立吉里吉里中学校	柳 田 正 人
26	宮古	宮古市立河南中学校	山 名 秀 樹
27	宮古	宮古市立花輪中学校	三 浦 秀 明
28	宮古	岩泉町立岩泉中学校	山 下 信 宏
29	久慈	久慈市立久慈中学校	小 橋 正 嗣
30	久慈	久慈市立夏井中学校	火 石 修
31	二戸	一戸町立一戸中学校	中 嶋 敦

平成30年度 行政説明の概要

教育行政上の課題について

教職員課首席経営指導主事兼

小中学校人事課長 荒川 享司 様



<はじめに>

大きな事故もなく、すべての小・中学校で順調なスタートが切れたことに感謝申し上げます。

1 定期人事異動の概略（内は昨年度比）

- (1) 異動総数1,519名（全体の21.2%）
- (2) 事務所を越える異動345名（－2名）
- (3) 管理職への昇任 校長79名（－2名）
副校長79名（－26名）
- (4) 女性管理職 校長54名
（校長全体の11.6%）
副校長108名
（副校長全体の22.9%）
- (5) 退職管理職 校長90名
（±0名、勸奨2含む）
副校長22名（－19名）
- (6) 新規採用 小141名、中76名、養教21名、
栄教1名 計239名（＋20名）

※H31は中で10名程度採用増の予定

※採用試験で加点措置を導入

2 少人数教育の推進について

中学校では、H29から中3まで少人数学級。少人数の良さを授業に生かし、深い学びができるよう授業改善に取り組んで欲しい。

3 再任用について

H30から3年間となり、フルタイムを選択できるようにした。再任用数は、29時間が128名、フルタイムが69名の計197名。公務員の定年の引き上げの検討会がスタートし、いずれ定年延長の時代へ。

4 人材育成について

教員の資質向上に関する指標に基づき、教員一人一人の育成方針を明確にした資質向上に取り組んでほしい。

5 不祥事の未然防止について

- (1) 懲戒処分：H29小中14件（＋1）
- (2) 酒気帯び運転が3か月連続で発生。
- (3) 体罰事案が中1件。暴言・威圧的指導で停職処分が小1件。

<おわりに>

教師がゆとりをもって子どもに接することができるよう、働き方改革にも取組をお願いしたい。

指導行政上の課題について

学校教育課首席指導主事兼

義務教育課長 佐野 理 様



1 はじめに

県教育委員会では、今年度、「いわての復興教育」プログラムの改訂への着手、岩手県教育振興計画（仮称）の作成、学校における働き方改革、新学習指導要領への対応、新たな高等学校再編計画の推進、児童生徒に寄り添った教育の充実と学びの保障に取り組んでいく。

2 本県学校教育の重点

- (1) 東日本大震災津波からの教育の復興
実践的な防災教育に重点を置いた復興教育の充実と心のサポートの充実
- (2) 第3期アクションプランの最終年度に向けて各学校の取組により、各指標の目標値がすでに達成された項目が多いが、「個別的教育支援計画」の作成や「学校関係者評価」の公表と報告は、全ての学校が達成できるよう推進して欲しい。

3 教職員の働き方改革について

本課でも他課との連携により取り組んでいきたい。また、研究指定や校内研の在り方の見直しを図っていきたい。各学校では、行事の取組（プロセス）等の削減という視点で取り組んで欲しい。

4 新学習指導要領の全面实施について

- (1) 移行措置の確実な実施
- (2) 教育課程説明会の継続実施
趣旨の周知徹底のために今年度も実施
- (3) 授業力ブラッシュアップ事業の展開
授業を見て学ぶという視点
- (4) 「特別の教科 道徳」の全面实施に向けて
H30中学校の教科書採択。中学校の全面实施に向け各種計画の整備と授業改善、評価観の共通理解を推進して欲しい。量的確保と「考え、議論する道徳」への質的転換を。

5 NIE全国大会について

6 進路指導について

進路事務は組織的に、遺漏のないように。

7 おわりに

新学習指導要領への移行の年。準備を万全に。

第1回専門部地区担当者会議の報告

研究調査部

会議では、議長に松井繁紀氏（胆江地区・江刺東中）を選出、記録者に瀧野澤徹氏（一関地方・藤沢中）を委嘱し、経過報告並びに今年度の調査研究に係ることと各種研究大会への対応等について協議し確認を行いました。

調査研究については、調査1「進路指導状況調査」は、項目に修正を加え例年通り上期に実施。調査2「教育課程編成調査」は、上期に調査項目の見直しに係る検討を行い学習指導要領や全日中の調査項目を取り入れるなど、本県と全国との比較検討なども可能となる調査内容に修正していき、更に学校経営の参考となる調査を進めることを確認しました。調査結果の分析・考察は、幹事の菊池英雄氏（盛岡地区・城西中）、鈴木美成氏（岩手地区・川口中）、佐々木徹哉氏（紫波地区・紫波三中）、照井正孝氏（附属中）のご協力を得ながら行います。

なお、各地区の研究については、総会要項の「研究の手引き」を参照し、推進をお願いします。

＜研究調査担当理事 佐藤 亥彦＞

行財政部

会議では、議長に伊東健氏（盛岡地区・松園中）を選出、記録者に榊原世士氏（岩手地区・滝沢二中）を委嘱し、今年度の運営方針と事業計画について審議しました。協議では、昨年度末の理事・評議員合同会議で承認された行財政調査の見直し内容と進め方について意見交換を行い、事業推進日程を確認しました。その後、幹事に、伊東健氏（盛岡地区・松園中）、榊原世士氏（岩手地区・滝沢二中）、内田興子氏（紫波地区・紫波二中）を選出しました。

今年度から行財政調査は、中学校長の「声」を県の教育行政施策等に反映できる実効性のある調査にすべく内容を焦点化し、9月中旬～10月上旬に実施します。なお、電子メールを活用した調査に変更しますので、会員の皆様のご理解をお願いします。

皆様のご協力により信頼性の高い調査及び集計を行い、県中校長会としての要望や提言の資料として活用できるよう取りまとめたいたと考えていますので、よろしくお願いします。

＜行財政担当理事 齊藤 眞理子＞

生徒指導部

会議では、議長に柏舘秀一氏（久慈地区・夏井中）を選出、記録者に佐藤滋氏（二戸地区・金田一中）を委嘱し、今年度の運営方針と事業計画について協議し、事業推進日程等の確認を行いました。

主要事業である「生徒指導をめぐる諸問題の調査及び研究」は、平成29年度分を対象期間として調査を実施します。調査項目については、5月中旬より各地区担当を通してメール等の電子媒体で送付しますので、会員の皆様のご協力をお願いします。

なお、今年度は、全日中調査との整合性も考慮し、調査項目の削減と一部変更を行い、情報機器についても今回の調査に含めて行うことを確認しました。調査結果は、幹事の坂下孝氏（盛岡地区・見前南中）、熊谷治久氏（岩手地区・西根一中）、佐藤嘉宏氏（紫波地区・紫波一中）のご協力を得て、その分析や考察を行い、8月中にまとめ、9月に「結果と分析」の概要としてリーフレットを作成し、配布する予定です。

＜生徒指導担当理事 菅井 雅之＞

広報部

会議では、議長に熊谷広克氏（宮古地区・豊間根中）を選出、記録者に齋藤斉氏（久慈地区・中野中）を委嘱し、今年度の運営計画について協議するとともに、各地区への原稿執筆分担等を確認しました。

広報部の主な事業は年間4回の会報「県中いわて」と会誌「岩手県中学校長会誌30号」の発行です。会報の分担等については、これまでのバランスや研究大会の分科会所属等を考慮し、各地区への原稿執筆を依頼しましたので、ご理解とご協力をお願いします。

「県中いわて」は6月初旬に242号を発行し、以後2か月毎に発行する予定です。その内容は、県中学校長会総会、各地区校長会の活動状況や先輩メッセージ、新入会員の抱負、横軸連携に係る情報や取り組みの様子とともに全日中鳥取大会、東北中山形大会、県小・中宮古大会の様子など適宜掲載したいと考えています。予定の内容が変更になる場合もありますのでご理解願います。

＜広報担当理事 村上 淳哉＞

平成30年度 新 会 員

No.	地 区	学校名	氏 名	前 所 属 職
1	盛 岡	玉 山	大 越 千 晶	笹間第二小学校校長
2	岩 手	西根一	熊 谷 治 久	県教委教職員課主任 経営指導主事
3	岩 手	葛 巻	天 間 保 幸	久慈市教委学校教育課長
4	岩 手	江 刈	加 藤 純	胆沢中学校副校長
5	岩 手	滝沢二	榊 原 世 士	北上南小学校校長
6	紫 波	紫波二	内 田 興 子	甲子小学校校長
7	遠 野	遠野西	中 野 善 文	県北教育事務所教務課長 兼主任経営指導主事
8	和 賀	東 陵	清 野 直 美	中野中学校副校長
9	和 賀	飯 豊	高 橋 信 之	小梨小学校校長
10	和 賀	和賀西	阿 部 伊佐美	矢沢中学校副校長
11	和 賀	湯 田	藤 澤 英 輝	下橋中学校副校長
12	和 賀	沢 内	江六前 仁 史	松園中学校副校長
13	胆 江	水沢南	久 慈 孝	県立生涯学習センター首席社会 教育主事兼生涯学習部長
14	胆 江	江刺東	松 井 繁 紀	城西中学校副校長
15	気 仙	越喜来	岩 崎 弘	大船渡中学校副校長
16	気 仙	吉 浜	村 上 誠	高田・第一中学校副校長
17	釜 石	唐 丹	菊 地 正 道	宮古西中学校副校長
18	釜 石	吉里吉里	金 野 節	安代中学校副校長
19	宮 古	宮古二	大 越 龍 二	彦部小学校校長
20	宮 古	河 南	沼 田 弘 二	花巻市教委小中学校課 参事兼課長
21	宮 古	花 輪	箱 石 順一郎	長内中学校副校長
22	宮 古	岩 泉	千 田 浩 身	金ヶ崎町教委教育次長
23	宮 古	小 川	新井野 邦 夫	遠野市教委学校教育課長
24	宮 古	田野畑	石 川 健	矢巾中学校副校長
25	宮 古	安 家	小野寺 満	米内中副校長
26	久 慈	夏 井	柏 舘 秀 一	見前南中学校副校長
27	久 慈	宇 部	松 本 隆	小川中学校副校長
28	久 慈	山 形	佐々木 律 夫	花巻北中学校副校長
29	久 慈	野 田	南 隆 人	鳥海小学校校長
30	二 戸	御返地	前 田 稔	黒石小学校校長

平成30年度 県中役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	佐 藤 進	上 田
副 会 長	佐 藤 精 晋	厨 川
〃	侘 美 庸	矢 巾
〃	佐 藤 健 司	水 沢
〃	佐 藤 努	大 川 目
監 事	佐久山 明 彦	小 屋 瀬
〃	菊 地 正 道	唐 丹
〃	井 口 亘	崎 山
理 事	田 山 英 治	米 内
〃	小 山 孝 治	滝 沢 南
〃	侘 美 庸	矢 巾
〃	富 永 秀 寿	石 鳥 谷
〃	柏 木 廣 喜	遠 野 東
〃	下川原 宏 明	北 上
〃	佐 藤 健 司	水 沢
〃	今 野 利 昭	萩 荘
〃	佐 藤 謙 二	大 船 渡
〃	佐々木 賢 治	金 石 東
〃	佐 藤 和 信	宮古・第一
〃	佐 藤 努	大 川 目
〃	佐 藤 順	福 岡
評 議 員	菊 池 敏 宏	飯 岡
〃	鈴 木 亨	柳 沢
〃	佐 藤 嘉 宏	紫 波 第一
〃	三 浦 剛	湯 本
〃	小 向 敏 夫	遠 野
〃	畠 山 敏	和 賀 東
〃	高 橋 勝	東 水 沢
〃	福 井 信 夫	一 関
〃	松 村 敦 子	赤 崎
〃	小 林 智	甲 子
〃	木 村 茂 樹	重 茂
〃	菊 地 理	久 慈
〃	琵琶坂 公 一	奥 中 山
常 任 理 事		
〃 (総 務)	小野寺 昭 彦	下 橋
〃 (研究調査)	佐 藤 亥 壺	仙 北
〃 (行 財 政)	齊 藤 眞理子	黒 石 野
〃 (生徒指導)	菅 井 雅 之	見 前
〃 (広 報)	村 上 淳 哉	北 松 園
〃 (中体連)	大 林 裕 明	下 小 路
〃 (中文連)	小野寺 昭 彦	下 橋

絆 きずな

大震災津波からの教育の復興に向けて ～県中学校長の取組と学校は「今」～

岩手県中学校長会総会において、佐藤精晋副会長（厨川中）より、東日本大震災津波から7年が経過した今、この間の県中学校長会の取組を振り返り、沿岸地方の中学校の「今」についての報告がありました。



1 横軸連携スタート・記録集（第1・2集）発刊

発災から1年が経過した平成24年3月、県中学校長会では、大震災津波直後の状況や横軸連携、姉妹校連携の取組をまとめ、「明日を見て前を向いて」と題して編集しました。また、3年が経過した平成26年3月に各学校や校長会の取組、生徒たちの活動の様子をまとめた第2集「未来への一歩を共に」を発刊しました。



2 いわて震災復興パネル展

昨年6月、花巻市で開催された第67回東北地区中学校長会研究協議会・岩手大会で、「震災を忘れない、風化させない」という思いを込め、被災した沿岸地区の中学校の状況をパネルで展示しました。研究協議会に参加した他県の校長先生方に復興の様子を伝えることができました。



3 全日中役員被災地訪問

これまでも全日本中学校長会からは、義援金を始め和太鼓の寄贈など、多大な支援をいただいています。平成29年8月、全日本中学校長会直田会長と役員3名が来県し、宮古地区の被災校3校を訪問しました。田老地区では防潮堤から被災地の現状を見学しました。



4 学校は「今」

発災から7年が経過した宮古地区・釜石地区・気仙地区の学校の「今」の様子が紹介されました。

(1) 熊本地震への支援活動



(2) 新校舎での入学式



(3) 校庭での運動会



(4) 校庭に残る仮説住宅



終わりに、時間の経過とともに被災各校の状況の多様化や、意識の風化が懸念されています。

これまでの取組で培われた横軸連携・姉妹校連携の精神を大切に、県中学校長会160名の会員が丸となって「学びの場」の復興に取り組んでいく必要があります。

今後も、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げ、話題提供といたします。